

## 第90回アブダクション研究会開催のご案内

### アブダクション研究会

世話人 福永 征夫

TEL & FAX 0774-65-5382

E-mail : [jrfd117@ybb.ne.jp](mailto:jrfd117@ybb.ne.jp)

事務局 岩下 幸功

TEL& FAX 042-35-3810

E-mail : [yiwashita@syncreatep](mailto:yiwashita@syncreatep)

第90回アブダクション研究会の開催について、下記の通りご案内を申し上げます。

(1) 第89回アブダクション研究会のご報告をします。

◆2013・3・23(土)に開催致しました、前回の第89回アブダクション研究会では、『システムバイオロジーの発展＝がんシステムバイオロジー＝』のテーマで、八尾 徹 氏(理化学研究所 GSC)に、「ゲノム科学・システムバイオロジー・がんのシステムバイオロジー」に関する今日までの世界の歩みと現状について、ご講演をいただきました。

◆八尾先生には、今回は、アブダクション研究会における三度目のご発表になりますが、前二回のお話の行き届いたフォロー・アップもしていただき、われわれのアブダクション研究会にとっては、ホップ・ステップ・ジャンプを地で行く、真に記念碑的なご講演になりました。

◆加えて、当日は幅広く充実したメンバーのご出席とご参画をいただくことが出来ました。研究会の場は、時間が窮屈な位に、活性化していましたし、懇親会の場も、皆様がそれぞれのスピーチに基づいて、有意義な経験の交流と視野の拡大を図られたご様子でした。

◆八尾 徹 先生とご出席の皆様、心からの感謝とお礼を申し上げます。

◆がんをめぐる科学と医療の問題は、宇宙の秩序の解明、および、地球環境問題の方向づけ、に並立する21世紀に生きる人類に課された三大挑戦テーマの一つかと思われます。

◆(1)がん (2)免疫 (3)進化 (4)加齢 という、領域的な知識と、広域的な知識がクロスする知識のインターセクション(交差点)は、われわれの世紀が遭遇する

に至った、言わば、生命に関する人間の探究と実践の営為にとって、希有なるゴールデン・クロスの機会を形成しているのは、間違いありません。

◆4つの、それぞれが大きな知識の領域である、知識の部分域と、4つに共通する、知識の全体域を、多元的・多面的に、かつ、包括的に、理解して働きかけることのできる、メタ的な意味論を見つけ出すことが、アブダクション研究という知識の広域学に求められています。

◆ 学術の発展と進化は、観測や観察を基にして、自然や社会の事物・事象の意味を、言葉でつづり合わせて、多元的・多面的な概念をつくり、その意味論の整合性を目指して、ひとりの人間の中で、人間と人間の間で、社会の中で、概念の擦り合わせを図って行く、多元性・多面性と包括性を求める、真摯で粘り強い、献身とブレークスルーから、生まれ出てきています。

◆希有なるゴールデン・クロスの機会がもたらす、人類のチャンスとリスクに関わる有意の知見を手にして行くためには、タテ糸の領域学の視点と、ヨコ糸の広域学の視点を交差（インターセクト）させて、知識を広域化し、高次化して、互いに断絶と矛盾を生じることなく融合させて行かなければなりません。このように、概念や知識の新たな組み合わせに、時代が求める普遍的な意味論を発見し、創造するところこそ、アブダクション研究という知識の広域学を確立して行かなければならない所以があります。

■■さて、この報告書に添付すべき資料の件ですが、皆様には、グループメールを通じて既にご案内のように、講演者の八尾徹氏からは、早々に、きっちりとまとめ上げられた要約文をお届けいただいています。

そして、追加的な資料として、世話人は、時を置かずに、「がんの発生機序」に関わる、いくつかの文献資料の読み込みと、その要点の抜粋・要約の作業に取りかかっていますが、今なお、相当の時間を要する作業を続行しています。

つきましては、その作業が完結し次第に、資料添付の案内状を「差し替え配信」させていただきますので、皆様には、何卒ご了解いただきますようお願いいたします。

\*\*\*\*\*

（2） 各界、各分野の皆様の積極的なご参加をお願いします。  
既存の領域的な知識をベースにして、新たな領域的な知識を探索し、それらを広域的な知識に組み換えて、より高次の領域的な知識を仮説形式的に創造することを目標に、ア

ブダクション研究の飛躍を期して参りますので、各界、各分野の皆様の積極的なご参加をお願いします。

(3) アブダクション研究会は、知識の広域化と高次化を目指し進化を続けて参ります。1996年に設立されたアブダクション研究会は、地球規模の難題に真正面から対処するために、知識の広域化と高次化を目指し、いつまでも、真摯に、勇気を持って、粘り強く、積極的に、可能性を追求し、多様な探究を積み重ねて、一步一步進化を続けて参ります。

(4) 発表をしてみたいテーマのご希望があれば、世話人宛に、積極的にお申し出下さい。皆様には、今後、ぜひとも発表をしてみたいテーマのご希望があれば、世話人宛に積極的にお申し出をいただきたく、お願いを申し上げます。お申し出は、通年的にいつでも、お受け入れを致します。上記の方向に沿うものなら、いかなる領域に属するいかなるテーマであっても、将来の可能性として、誠意を持って相談をさせていただき、実現に向けて調整を果たす所存であります。

## 記

◇ 日 時： 2013年5月18日(土) 13:00~17:00(本会)  
17:15~19:15(懇親会)

◇ 場 所： 日本電気企業年金会館 3階304会議室 (中山氏のお名前で申し込み)

東京都 世田谷区 代沢5丁目33-12 電話:03-3413-011(代)

\* 当日の連絡先(岩下幸功・携帯電話)070-5541-4742

\* 小田急線/京王・井の頭線 下北沢駅 下車 徒歩約8分

\* 会場の地図は、グループメールのブリーフケース内「下北沢 NEC 厚生年金基金会館 Map」に収載。

<http://groups.yahoo.co.jp/group/abduction/files/>

◇ テーマ:

『 アダム・スミスに学ぶ、  
「道徳感情論」と「国富論」の世界(仮題) 』

# 依田 耕市郎 氏

## —参考文 献—

堂目卓生著 「アダム・スミス」(08・中央公論社)

### □参考文献の序文のご紹介□

アダム・スミス(1723~90)は生涯において二つの書物を著した。『道徳感情論』(1759)と『国富論』(1776)である。二つの著作のうち、『道徳感情論』は倫理学、『国富論』は経済学に属する本だといわれている。一般に、なじみ深いのは『国富論』であろう。また、『国富論』の中で最も有名な言葉は何かとたずねれば、多くの人が「見えざる手」と答えるにちがいない。

これまで、「見えざる手」は、利己心にもとづいた個人の利益追求行動を社会全体の経済的利益につなげるメカニズム、すなわち市場の価格調整メカニズムとして理解されてきた。そして、『国富論』の主要なメッセージは、政府による市場の規制を撤廃し、競争を促進することによって、高い成長率を実現し、豊かで強い国をつくるべきだということだと考えられてきた。

しかしながら、このような解釈によって作られるスミスのイメージ——自由放任主義者のイメージ——は本物だといえるだろうか。すなわち、はたしてスミスは、個人の利益追求行動が社会全体の利益を無条件にもたらすと考えていたのだろうか。スミスは急進的な規制緩和論者であったのだろうか。市場を競争の場と見なしていたのだろうか。経済成長の目的は一国全体を豊かにすることだと考えていたのだろうか。さらに根本に立ち返ってみれば、そもそも『国富論』は豊かで強い国を作るための手引書として書かれたのだろうか。実は、これらの問題を考察するための鍵が、スミスのもうひとつの著作『道徳感情論』の中に隠されている。

本書は、『道徳感情論』におけるスミスの人間観と社会観を考察し、その考察の上に立って『国富論』を検討することで、これまでとは異なったスミスのイメージを示す。最近のスミス研究では、『道徳感情論』を『国富論』の思想的基礎として重視する解釈が主流になりつつある。しかしながら、二つの著作の全体的な論理関係については、必ずしも十分明らかにされているわけではない。本書において私は、『道徳感情論』と『国富

論』において展開されるスミスの議論を、社会の秩序と繁栄に関する、論理一貫したひとつの思想体系として再構築する。

さらに、再構築の過程の中で、私は、人間に対するスミスの理解の深さや洞察の鋭さ、そして、それらの現代的意義を、読者に感じ取ってもらえるよう努めたいと思う。

\*\*\*\*\*

◇プログラム：

- (1) 解説発表： [PART-1] 13:00~14:45  
                   <小休止> 14:45~14:55
- (2) 解説発表： [PART-2] 14:55~16:05
- (3) 総合的な質疑応答： 16:05~16:55
- (4) 諸連絡： 16:55~17:00
- (5) 懇親会： <皆様の積極的なご参加を期待しています> 17:15~19:15

\*\*\*\*\*

第90回 アブダクション研究会（5/18）の出欠連絡

●5/14（火）までの返信にご協力下さい。ご連絡なしの当日出席も無論可ですが、会場や資料の準備の都合もありますので、できるだけ、ご協力くださるようお願いいたします。

FA X： 042-356-3810  
E-mail： abduction-owner@yahooogroups.jp 岩下 幸功 行

	出 席	出 席
●5/18（土）の研究会に、未定ですが	調 整 します。	調 整 します。
	欠 席	欠 席

ご署名 \_\_\_\_\_

☆ 出欠の連絡は、グループメールメニューの「投票」コーナーから行うこともできます。  
<http://groups.yahoo.co.jp/group/abduction/polls>

---

\*次々回 2013年7月度の第91回アブダクション研究会における、発表のご担当者は、現在、海外に主張中です。

\*2013年7月27日（土）または7月20日（土）または7月13日（土）のいずれかの日程で開催できるように、会場の確保に努め、5月20日を目途に、調整して決定します。  
中山貞望様に、NEC企業年金会館・3階304会議室の確保をお願いしています。

\*7月度は、大熊 邦裕 氏 に、次のテーマで解説発表をしていただく予定です。

◆テーマ : 『糖鎖生物学の世界を学ぶ（仮題）』

◆文献 : M・E・Taylor, K・Drickamer 著＝西村・門出監訳「糖鎖生物学入門」  
(05・化学同人)

平林淳著「糖鎖のはなし」(08・日刊工業新聞社)

独立行政法人/科学技術振興機構編「糖鎖を知る—その素顔と病気への挑戦—」(同法人・イノベーション推進本部)

\*大いにご期待をいただき、奮ってご参加ください。

---

#### <定例アンケート調査>

もしご協力がいただければ、という趣旨であり、必須ではありません。

皆様のメッセージ集として他の会員にも伝達しますので、情報の交流に積極的に参画下さい。

- (1) 今、アブダクションの研究・実践と関連のある事項で特に興味をもって取り組んでおられること。
- (2) 研究会の議論の場を通して INTERSECTIONAL なアイデアや知見の INCUBATION が進んでおり、例会で発表したいと思っておられること。
- (3) これまで(第1回～第89回)の研究発表やなされた議論(「議事録」を参照下さい)に関して、さらに改めて質疑や意見を表明したいと考えておられること
- (4) アブダクションの観点から、注目すべき人・研究グループ・著書(古今東西不問)。
- (5) 細分化された「知」の再構築を図るという視点から、注目すべき人・研究グループ・著書(古今東西不問)。
- (6) 貴方ご自身がお考えになられている「知」の定義とは?
- (7) その他のご意見、ご要望、連絡事項など。

特に他学会・研究会での発表内容や発表論文等についても是非お知らせ下さい。

.....  
.....  
.....

.....  
.....  
.....  
.....

\* \* \* \* \*